

第2次荒尾市 子どもの読書活動推進計画(案)



平成28年 月
荒尾市教育委員会

目次

はじめに	2
------	---

第1章 基本的な方針

1-1 計画の目標	3
(1) 子どもたちが読書に親しむ環境の整備・充実	
(2) 家庭、学校、地域、関係機関等の連携の強化	
(3) 読書活動の普及・啓発	
1-2 計画の期間	3

第2章 具体的な取組

2-1 家庭における取組	4
(1) 本との出会いの場づくり	
(2) 読書に親しむ環境づくり	
2-2 幼稚園・保育園等における取組	5
(1) 幼稚園・保育園等の図書の実充	
(2) 園児に対する読書の啓発	
(3) 保護者・教諭に対する読書の啓発	
2-3 学校における取組	6
(1) 読書活動の実充・学校図書館の実充	
(2) 教職員研修の実充	
2-4 市立図書館における取組	7
(1) 年代に応じた資料やサービスの実充	
(2) おはなし会の実充	
(3) 図書館職員のスキルアップの推進	
(4) 図書館ボランティアの育成推進	
2-5 地域における取組	8～9
(1) 公民館や子育て支援施設などにおける読書活動の推進	
(2) ボランティアによる読書活動の推進	
(3) 障がいのある子どもたちへの読書活動の推進	
(4) 関係機関等の連携・協力の推進	
(5) 移動図書館の活用	

用語説明	10～12
------	-------

第3章 現況と今後の指標

3-1 荒尾市子どもの読書に関するアンケート結果	13～31
3-2 平成32年度末において期待される目標	32～33

はじめに

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、表現力を高め、感性や想像力を磨き、人とのコミュニケーションを豊かにするものにして、人生をよりいきいきと生きていく上で欠かすことができないものです。

しかし近年、子どもたちの読書離れ、文字離れによる思考力の低下が叫ばれております。

その背景には、映像文化・メディア等の発達による生活環境の大きな変化があり、またここ数年でもインターネットやスマートフォン等の情報機器の発達・普及に伴い子どもたちの読書離れがますます進んでいます。さらに地域や家庭での教育力の低下に伴い、乳幼児からの読書習慣の未形成等の問題も指摘されています。

国においては、子どもの読書活動の支援をするために、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」^{*1}が施行され、平成17年7月には、広く読書を勧めることを目的とした「文字・活字文化振興法」^{*2}が施行されました。

更には、2010年を「国民読書年」とすることが、平成21年6月の国会で決議されました。熊本県においても、平成16年に「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」^{*3}が策定され、子どもの読書活動の推進が図られています。

本市においては、平成22年4月に「第1次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を策定しております。今回「第2次荒尾市子どもの読書活動推進計画」を策定するにあたり、子どもの読書活動の推進を中心に、第1次計画の基本的な目的を引き継ぐこととします。またこれまでの取り組みの成果や課題を整理し、今後の読書活動を推進するための方針を明らかにします。

この計画に基づき、今後とも荒尾市の読書活動の推進を図ります。



第1章 基本的な方針

1-1 計画の目標

(1) 子どもたちが読書に親しむ環境の整備・充実

子どもたちが読書に親しみ、自主的に読書をするようになるためには、乳幼児期から読書に親しめる環境づくりに配慮することが必要です。家庭・学校・地域等において、子どもたちが積極的に読書をする意欲を高め、進んで読書を行う習慣を身に付けることができるよう、読書に親しめる環境の整備・充実に努めます。

(2) 家庭・学校・地域・関係機関等の連携の強化

子どもたちの自主的な読書活動を推進するためには、社会全体での取組が必要です。家庭・学校・地域・関係機関等が連携し、それぞれの特性を活かしながら相互協力し、共に充実した活動ができるよう情報や人材の交流、図書資源の有効活用に努めます。

(3) 読書活動の普及・啓発

子どもたちの自主的な読書活動を促すためには、子どもたちの身近にいる保護者など大人が読書活動に理解と関心を持つ必要があります。

読書の意義や重要性を理解することができるよう、読書活動に関する情報を積極的に提供するとともに、その必要性についての普及・啓発に努めます。

1-2 計画の期間

平成28年度からおおむね5か年(～平成32年度)の計画とし、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

第2章 具体的な取組

2-1 家庭における取組

子どもたちの読書習慣を形成する上で、家庭の果たす役割が非常に大きくなります。乳幼児期からの絵本の読み聞かせ等は、その後の読書に大きな影響を及ぼします。幼い子どもにとっての読書とは、保護者の子守歌や語りかけ、読み聞かせ等の言葉の体験から始まると言われます。また、本好きの保護者ほど子どもも読書家になると言われています。どうやって子どもを読書好きにさせるかは、親が本を読んでいる姿勢を見せる事のようにです。このような事実は、厚生労働省の調査から裏付けされています。

しかし、最近では、インターネットやスマートフォン等の情報機器の発達・普及に伴い、子ども達の読書離れが進んでいます。このような子どもたちを取り巻く生活環境の変化などにより、家庭で読書に親しむ機会は少なくなっています。

その対策としては、最も身近な存在である保護者等が読書の重要性を認識し、一緒に図書館に出かけたり、共に読書をしたりして、読書に対する興味や関心を引き出すよう積極的に子ども達に働きかけることが大切です。また、本を読むことで情報と知識が蓄積され、表現力や伝達力等の基礎能力の発達を促し、子ども達の情緒的な人格形成にも大きく作用します。ただし、子ども達は興味のない本を与えられたり、まわりから読書を強制されたりすると読書に対する興味を失って、読書離れを起こす場合もあります。成果を早急に求めずに、子ども達の成長を温かく見守ることが重要です。

(1) 本との出会いの場づくり

赤ちゃんへの子守唄代わりに絵本を一冊読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館へ出向いたりすること等により、子どもは本の楽しさや読書の喜びを感じることができます。

読書を通じて親子のきずなを深めるとともに、子どもたちと本との出会いの場である家庭での読書活動の推進に努めます。

(2) 読書に親しむ環境づくり

福祉課や保健センターなどと連携し、乳幼児健診等の機会を利用した、保護者が読書に親しみ家庭で読書の時間を共有する取組を、乳幼児期段階から推進します。

2-2 幼稚園・保育園等における取組

(1) 幼稚園・保育園等の図書の充実

子どもたちの、ことばや絵本などへの興味・関心を育み、幼児期の情操の育成、思考力の育成等に大きな役割を果たすとともに将来的な読書活動や図書館利用へ結び付けるため、子どもたちが、気軽に手に取って読みたくなるような良質な内容の図書(質のいい絵本や紙芝居など)の充実を働きかけます。

(2) 園児に対する読書の啓発

子どもたちの年齢、発達段階にあった絵本の読み聞かせや紙芝居などは、特に乳幼児の心を育むと同時に、子どもに安らぎを与えるものとなっています。

よって、幼稚園・保育園等においても、子どもたちが絵本や物語に親しむ機会を確保する観点から、図書館等の職員を派遣し、おはなし会の実施や、移動図書館の巡回を積極的に行います。

(3) 保護者・教諭・保育士に対する読書の啓発

乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう、幼稚園・保育園等で行っている子育て支援活動の中でも、読み聞かせ等推進するとともに、保護者へ読書の素晴らしさを伝え、更には幼稚園・保育園等の教諭・保育士のスキルアップを図るため、図書館等で行う講演会への積極的な参加を促すなどして、子どもへの読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及することを図ります。



荒尾市立図書館



2-3 学校における取組

学校では、読書活動を教育活動の中に適切に位置付け、読書時間の確保や読書指導の工夫・充実を図ること、また、学校図書館を効果的に活用することが必要となっています。

しかし、小学校の図書室では、読書活動を支援する司書の配置が難しく、図書担当の教諭による活動のみで、専門的な図書支援や図書の啓発活動等が難しい状況にあります。また、蔵書も少なく、新刊等が充実していないのが現状です。読書習慣を身につけさせるためには、図書室等環境の充実と本に親しむ態度を育成する必要があります。

現在、市内小中学校では、朝に読書を行う時間をもうけており、児童生徒たちに読書をする機会を与えています。

市内の全小中学校・高校を挙げた、みんなで読書を楽しむ取組の充実を図ります。

(1) 読書活動の充実・学校図書館の充実

学校図書館は児童・生徒の自由な読書活動の場として、学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心を育む機能と、調べ学習のための資料提供の機能があります。国の「新学校図書館図書整備5か年計画」^{*4}の趣旨に基づき、計画的な図書の充実に努めます。

更に、学校図書館と市立図書館とのネットワーク化を促進し、蔵書やビデオ教材等、情報資料の貸出しを含め、児童生徒の学習のみならず、地域の人たちへのサービス提供に努めます。

(2) 教職員研修の充実

学校図書館は、児童生徒にとって読書の楽しみを知り、本を通して自由に知識を得ることができる場所です。また、司書教諭や学校図書館司書を中心とした教職員は、児童生徒の読書活動を積極的に支援していくことが求められると同時に、本の選定、本に関する相談など広範な知識が必要となります。

よって、読書活動の重要性や司書教諭の役割などについて、市立図書館司書を含めた広範囲な研修会の開催の他、図書館等が発行している定期刊行物等^{*5}の配布に努めます。

2-4 市立図書館における取組

(1) 年代に応じた資料やサービスの充実

乳幼児から青少年までの読書の推進を図るため、その年代に応じた興味や関心、あるいは学習意欲を高める図書をはじめ、絵本や紙芝居などの資料の充実を図ります。乳幼児期からことばと心を育むために「ブックスタート」^{*6}を実施し、赤ちゃんと保護者が一緒に絵本を開く楽しい時間を過ごし、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動を行います。

また、中・高校生を中心とした10代の青少年(いわゆるヤング・アダルト層以下、「YA」という。^{*7})コーナーなどを設置し、10代向けの良質な読み物だけではなく、YAの興味、関心に配慮した読み物や学校生活を充実させるための資料及び将来を考えるための参考となる資料などの充実を図ります。

(2) おはなし会の充実

市立図書館では、併設する中央公民館を活用し、「つくってたべるおはなし会」や「ぴよぴよおはなし会」など^{*8}のおはなし会を定期的で開催し、絵本のよみきかせ、紙芝居、パネルシアターなどにより、子どもたちが読書に親しむきっかけづくりを行っています。今後も啓発及び内容等の一層の充実を図ります。

(3) 図書館職員のスキルアップの推進

子どもたちや保護者が図書について気軽に相談でき、気軽に図書に親しむことができる環境を整備するため、図書館司書をはじめとする図書館職員の専門的知識や接客サービスの向上を図るとともに、職員同士での研修会の実施のほか、各種研修会への積極的な参加を促進します。

(4) 図書館ボランティアの育成推進

市立図書館では、平成19年度より図書館ボランティアを募集し、おはなし会などでのよみきかせに協力を頂いています。今後は、更に広くボランティアの育成を行っていくことで、おはなし会などの一層の充実を図り、子どもたちが気軽に本に親しめる環境づくりを推進します。

(5) 近隣市町村との相互利用の活用

平成26年4月から、荒尾市・大牟田市・南関町・長洲町に住所を要する方は、2市2町内の図書館を相互利用出来るようになりました。相互利用の活用により、多くの蔵書に触れ合うことの出来る機会を増やし、読書の推進を図ります。

2-5 地域における取組

本市では、小学校ごとに、子どもたちに本の面白さを伝えるための活動をしているよみきかせボランティアグループ^{※9}があります。しかし、活動をしている会員は減り、なかなか活動出来にくい状況になっているようです。今後、よみきかせグループの方々が活動しやすいシステムを構築していくことが必要となってきます。

(1) 公民館や子育て支援施設などにおける読書活動の推進

社会の変化に伴い、核家族化の進行や共働き家庭の増加など、家族の形態も多様化してきており、このような様々な家庭環境に対応するため、中央公民館、学童保育所、放課後子ども教室等において、各種子育て支援事業が行われております。

そこで、子どもたちが日常的に利用するそれらの施設の図書コーナーの充実を図るとともに、ボランティア等の協力を得ながら読み聞かせなどを実施します。

(2) ボランティアによる読書活動の推進

本市には、小学校ごとに、子どもたちに本の面白さを伝えるため活動している読み聞かせボランティアグループがあります。社会全体で子どもの読書活動を推進するうえで、ボランティアの活躍は重要であり、その活動には大きな期待が寄せられています。

そこで、学校や子育て支援施設などでの読み聞かせの要望に対応するため、ボランティアの拡充を図るとともに、ボランティア団体間のネットワークを構築していきます。

(3) 障がいのある子どもたちへの読書活動の推進

障がいのある子どもたちに対しては、子どもたち一人ひとりの発達段階や障がいの程度、生活経験等に応じ、適切な図書の選定と読書活動の工夫、読書環境の整備を図る必要があります。

また、障がいのある子どもにも等しく読書の機会が与えられるように、学校、地域、市立図書館等が連携し、点字絵本、録音資料、映像資料、大活字本等の収集を図っていきます。

(4) 関係機関等の連携・協力の推進

子どもの読書活動を推進するためには、家庭、幼稚園、保育園等、学校、市立図書館、行政、地域社会が一体となった「童話発表大会」*10、「どくしょクラブ『ポン』」*11、「地域文庫」*12の取組が必要であり、関係機関・団体等の相互の連携・協力が必要です。

そこで、「広報あらお」や市のホームページ、各団体機関紙などの媒体を通じて、読み聞かせなどの大切さを保護者に啓発するとともに、関係機関・団体等の相互の連携・協力の重要性について理解を図っていきます。

各施設間の、絵本や紙芝居などの相互貸出しについても積極的に行い、家庭での絵本等の購入も働きかけていきます。

また、学校図書館と市立図書館のネットワーク化による情報の共有化をはじめ、県立図書館との相互貸借*13の拡充など、多様な読書活動推進体制の整備により、子どもたちが一層読書に親しめる環境の整備に努めます。

(5) 移動図書館の活用

移動図書館「読む読むくん」*14の、広報・図書館だよりなどによる啓発を通して一層の利用促進を図り、各地域での読書活動を推進します。



移動図書館「読む読むくん」



童話発表大会

【用語説明】

※1 「子どもの読書活動の推進に関する法律」

この法律は平成13年12月に施行され、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、子どもの健やかな成長に資することを目的とします。子どもの読書活動推進計画もこの法律によって義務付けられています。

※2 「文字・活字文化振興法」

この法律は平成17年2月に施行され、文字・活字文化が長い人類の歴史の中で蓄積してきた知識や知恵の継承及び向上、加えて豊かな人間性を育んできたことに欠かせないものであることから、文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現を目的としています。

※3 「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」

熊本県で、平成16年に策定された子どもの読書活動推進計画の名称であり、平成26年度に第三次推進計画が策定されています。

※4 「新学校図書館図書整備5か年計画」

文部科学省において、平成19年度から実施されていた「学校図書館図書整備5か年計画」に引き続いて平成24年度から実施されている学校図書館図書の整備計画であり、5年間で1,000億円の措置を講じるとされています。今回は、全国の公立の義務教育諸学校に新聞を配備する経費と、全国の公立の小中学校に学校図書館担当職員を配備する経費とされており、新聞配備と学校司書の配置に関する措置は今回初めてとられるものです。

※5 図書館等が発行している定期刊行物等

現在、市立図書館において作成している子どもの読書推進に役立つ発行物として、「かもめ通信」や「ヤングアダルト通信『Hope』」などがあります。

図書館だより「かもめ通信」……………	図書館情報や新刊情報を掲載した発行物(毎月)
学校向け図書館だより……………	学校教諭に向けた図書案内(年4回)
小学校新入生向け図書館案内…	小学校新入生を対象に配布する図書館利用案内
中学・高校図書館案内ポスター…	中学・高校生に向けた図書館利用案内ポスター
ヤングアダルト通信「Hope」……………	中学・高校生に向けた読書案内(年1～2回)

※6 ブックスタート

母子保健事業などの機会に、「絵本」と「赤ちゃん絵本を楽しむ体験」をプレゼントする活動。赤ちゃんと保護者が、絵本を介して、心ふれあう時間を持つきっかけを届けます。

荒尾市においては、平成24年8月より、荒尾市保健センターが行う母子保健事業において、1歳6か月児健診受診者を対象に実施しています。

※7 ヤング・アダルト層、「YA」

中・高校生を中心とした10代の青少年(いわゆるヤング・アダルト層以下「YA」という。)は、図書館の児童コーナーに入室するのを躊躇する年齢といえます。ところが、出版界ではこの世代向けの本は児童書として扱われることが多く、良質な本が多数存在するにもかかわらず、乳幼児から小学生を利用対象とする児童室に資料を配架したのでは、YAの目に触れる機会がありません。また、この世代の読書傾向として、児童書、一般書を問わず幅広く関心を示すにもかかわらず、どの本が自分たちの求めるものなのかを判断する経験が不足している傾向にあります。

※8 「つくってたべるおはなし会」や「びよびよおはなし会」など

現在、市立図書館において実施されているおはなし会の名称で、この他にも子ども向けのおはなし会として「まつぼっくりのおはなし会」や「ゆりかもめおはなし会」などがあります。

つくってたべるおはなし会	……………	絵本に出てくるお菓子を親子で一緒に作って食べるおはなし会
びよびよおはなし会	……………	乳幼児と保護者に対する絵本のおはなし会
ぐりとぐらのおはなし会	……………	絵本の読み聞かせ、パネルシアター、紙芝居、手遊び等
まつぼっくりのおはなし会	……………	図書館ボランティアによるおはなし会
ゆりかもめおはなし会	……………	図書館職員によるおはなし会
クリスマスおはなし会	……………	冬やクリスマスをテーマとしたごとのおはなし会
BMおはなし会	……………	移動図書館巡回対象の保育園2園で行うおはなし会

※9 読み聞かせボランティアグループ

各小学校や市立図書館などで、読み聞かせやおはなし会を実施されており、平成27年現在、次のグループが活動されています。

◆活動中の読み聞かせグループ

一 小…お話大好きの会	万田小…お話の会「じらぐも」	平井小…手ぶくろの会
府本小…府本小学校PTA読み聞かせ	八幡小…お話し会	有明小…ティンカーベル
緑ヶ丘小…読み聞かせボランティア	中央小…お話ポケット	清里小…紙ふうせん
桜山小…卜口の会	四 中…荒尾第四中学校保護者と教師の会	

※10 「童話発表大会」

子どもたちの読書意欲や読書力を向上させ、創作活動を活発にするための発表の場です。

※11 「どくしょクラブ『ポン』」

子どもたちに本を読む機会を多く持ち、読書の楽しさを知ってもらうため、荒尾市立図書館で一定期間(2か月間)スタンプラリーを行い、期間中20冊以上の本を読んだ子どもたちの表彰式を行っています。

※12 「地域文庫」

市立図書館からの貸出しサービスなどを活用して、地域内の公共施設や各種施設などに文庫を設けるものです。

※13 「相互貸借」

図書館の相互協力の一つで、利用者の求めに応じて、図書館同士で資料の貸借をすることです。

※14 移動図書館「読む読むくん」

図書館を利用しにくい地域に対して、自動車等の移動手段を用いて図書資料を運び、図書館職員による図書館サービスを現地で提供することです。本市においては「読む読むくん」が各地を巡回しています。

第3章 現況と今後の指標

3-1 荒尾市子どもの読書に関するアンケート結果

実施内容

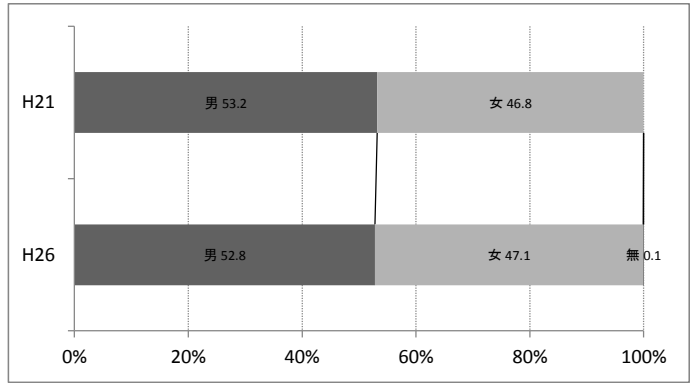
1. 実施日	平成27年2月		
2. 調査対象	市内小学校10校	市内中学校3校	
	市内高等学校2校	市内小中学生保護者	
3. 回答数	小中高校生	2,119名 / 2,129名	配付 (回答率 99.5%)
	小中学生保護者	1,370名 / 1,832名	配付 (回答率 74.8%)

目次

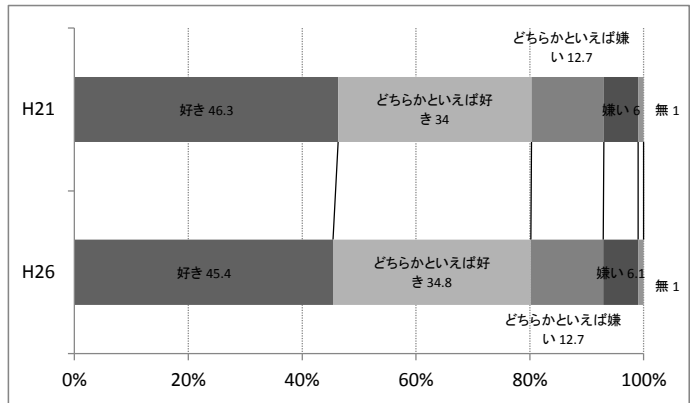
1. 小学生児童アンケート結果	13～14
2. 中学生生徒アンケート結果	15～17
3. 高校生生徒アンケート結果	18～20
4. 小学生保護者アンケート結果	21～23
5. 中学生保護者アンケート結果	24～26
6. 小中学生保護者アンケート結果(自由記載分)	27
7. 学校アンケート結果	28～29
8. 幼稚園・保育園アンケート結果	30～31

1. 小学生児童アンケート結果

問1
あなたの性別を教えてください。

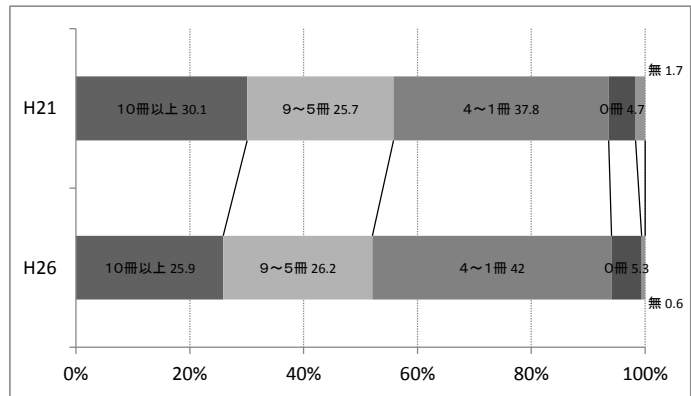


問2
あなたは、本を読むのが好きですか。



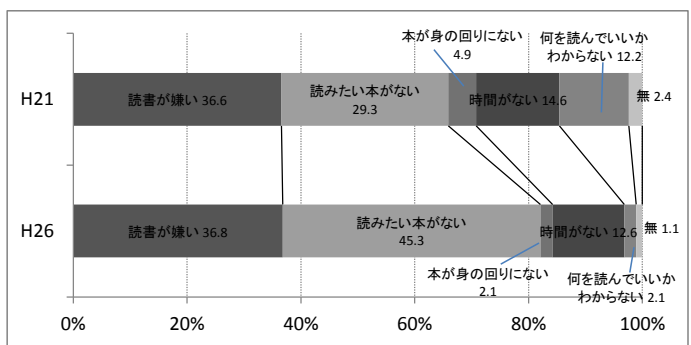
問3
あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

10冊以上読む児童の割合は減少しているが、1冊以上9冊未満、本を読んでいる児童の割合は増加している。



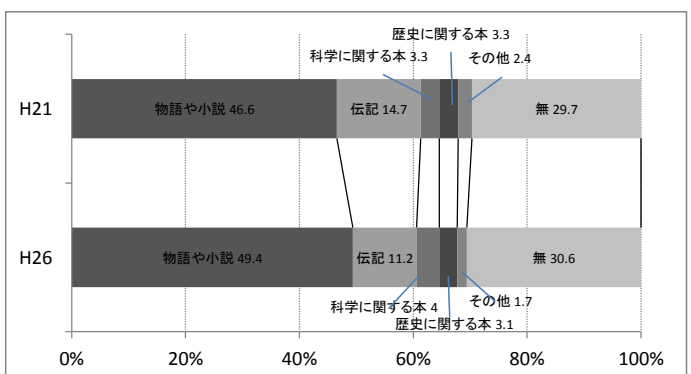
問4(1)
問3で「0冊」と答えた人なぜ本を読まないのですか。

「何を読んでいいかわからない」と答えた児童が減少し、「読みたい本がない」と答えた児童が大きく増加している。



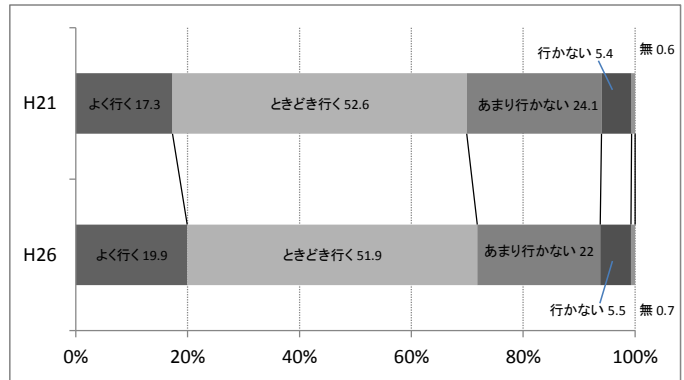
問4(2)
問3で「1冊以上読む」と答えた人どんな本をよく読みますか。

その他として、
 ・絵本
 ・図鑑
 ・ゲームの攻略本
 ・漫画
 ・レシピ、料理本
 ・スポーツの本
 などが挙げられた。



問5
学校の図書館(図書室)によく行きますか。

「よく行く」と答えた児童の割合がわずかに増加し、図書室に足を運ぶ児童の割合が7割を超えている。

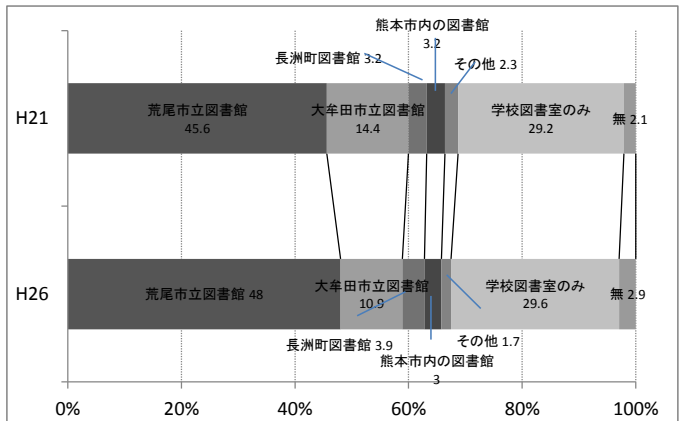


問6
あなたは、学校以外の図書館に行きますか。
(複数回答可)

荒尾市立図書館を利用している児童が増加していることが分かる。

- その他として、
- ・玉名市民図書館
 - ・玉名市横島図書館
 - ・柳川市立図書館

などが挙げられた。

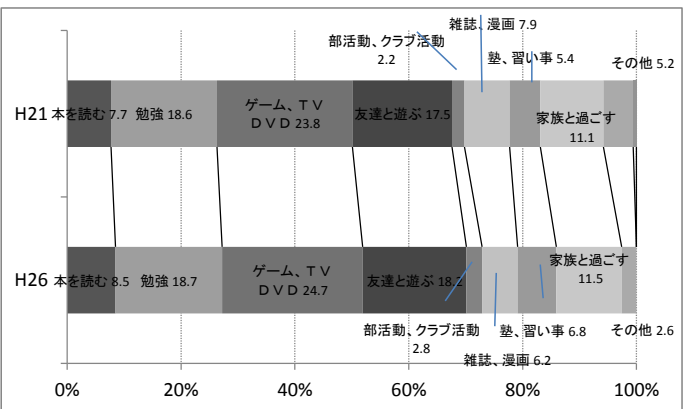


問7
あなたは、休みの日や家にいる時、
どんなことをしますか。
(複数回答可)

「本を読む」と答えた児童の割合はわずかに増加しているが、全体的に見てみると、休みの日に読書をする児童の割合は依然として低いままである。

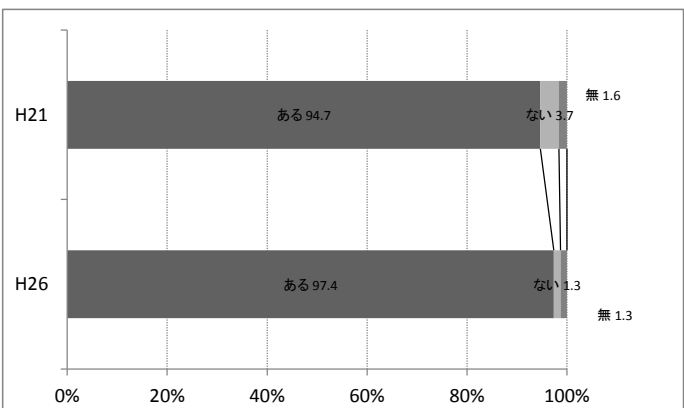
- その他として
- ・音楽を聴く
 - ・スポーツ
 - ・寝る
 - ・外で遊ぶ、散歩
 - ・ペットと遊ぶ
 - ・絵を描く
 - ・ピアノ

などが挙げられた。



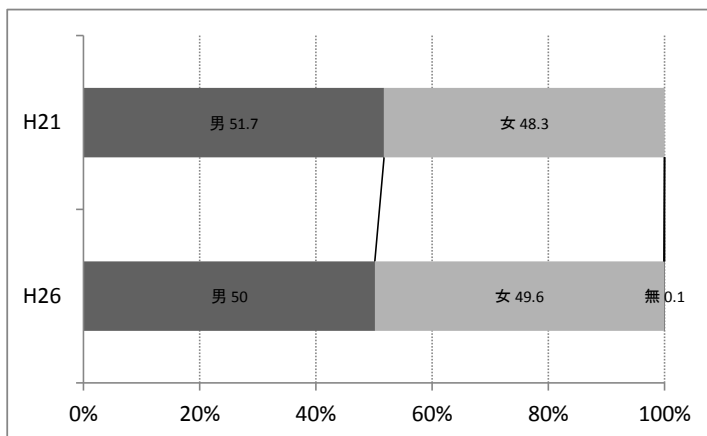
問8
あなたは、「よみかせ」を
してもらったことがありますか。

ほとんどの児童が「よみかせをしてもらったことがある」と回答している。



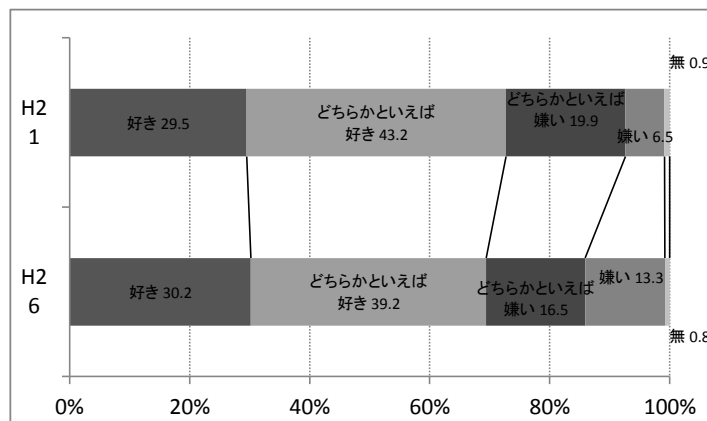
2. 中学生生徒アンケート結果

問1
あなたの性別を教えてください。



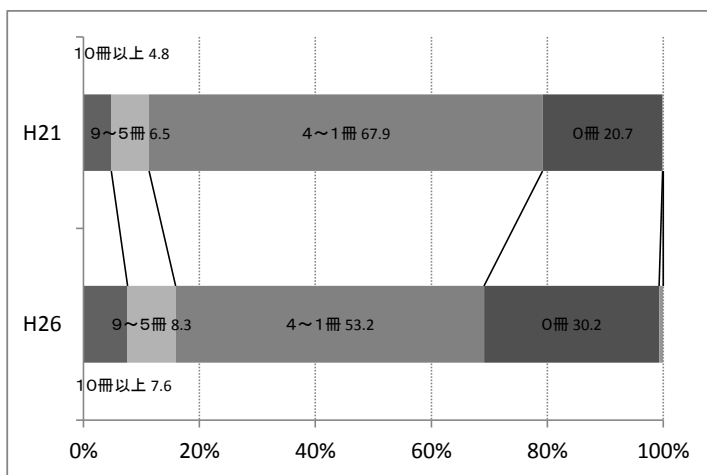
問2
あなたは、本を読むのが好きですか。

読書を好む生徒の割合が減少している。



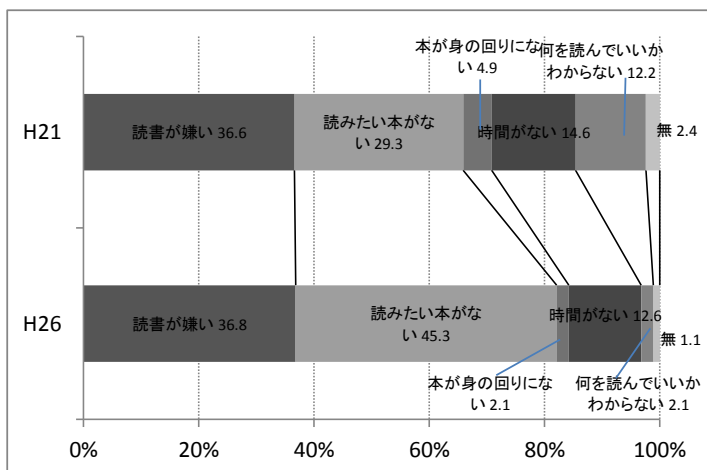
問3
あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

5冊以上読む生徒の割合は増加しているが、1冊も読まないという生徒の割合が大きく増加しているため、全体として読書をする生徒の割合は減少している。



問4(1)
問3で「0冊」と答えた人
なぜ本を読まないのですか。

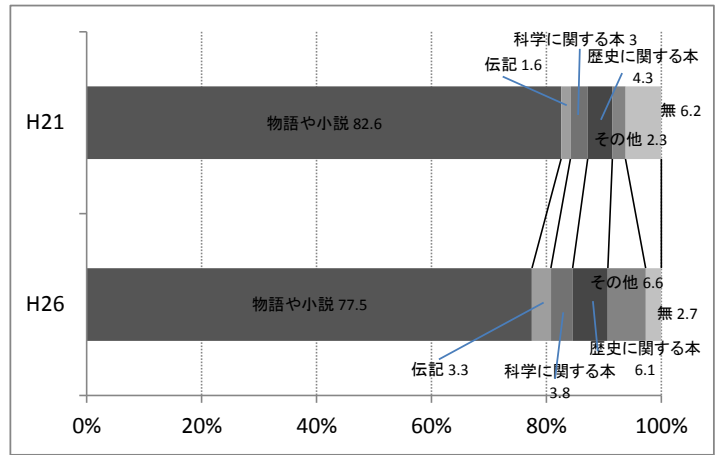
「何を読んでいいかわからない」と答えた生徒の割合が大きく減少し、「読みたい本がない」と答えた割合が大きく増加している。



問4(2)
問3で「1冊以上読む」と答えた人
どんな本をよく読みますか

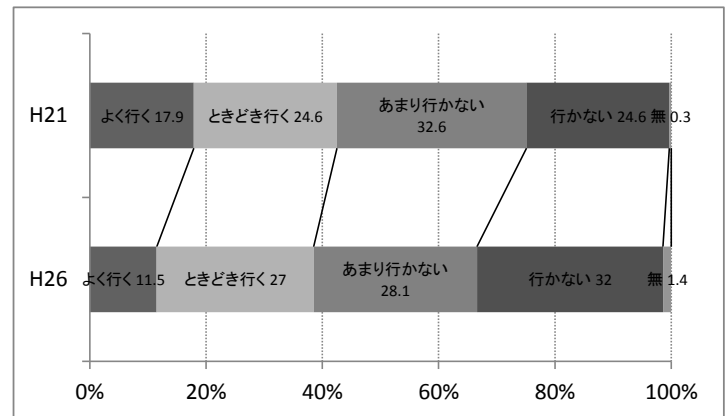
科学や歴史に関する本など、専門的な本を読む生徒の割合が増加している。全体としては、物語や小説が大きな割合を占めている。

その他として、
・漫画
・料理の本
などが挙げられた。



問5
学校の図書館(図書室)によく行きますか。

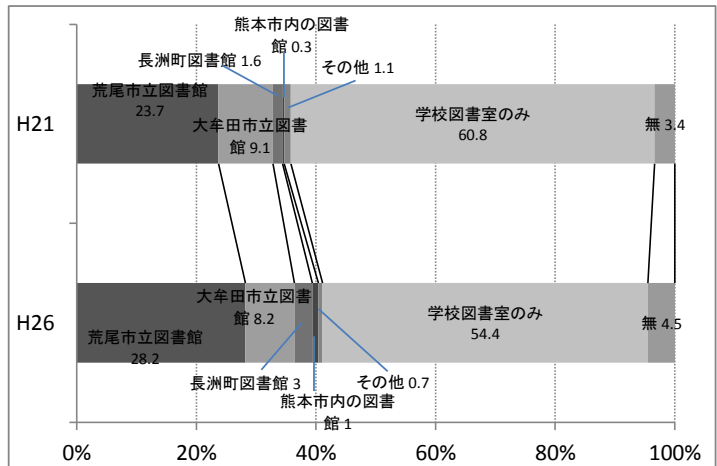
学校の図書室に行く生徒の割合が減少している。



問6
あなたは、学校以外の図書館に行きますか。
(複数回答可)

学校の図書室のみではなく、荒尾市立図書館や市外の図書館も活用していることが分かる。

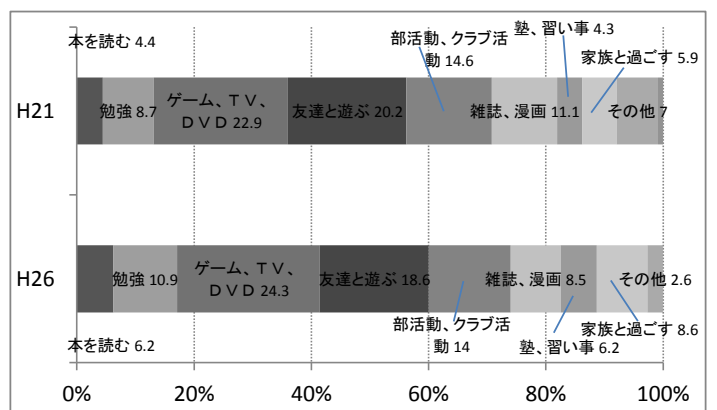
その他として、
・玉名市民図書館
が挙げられた。



問7
あなたは、休みの日や家にいる時、
どんなことをしますか。

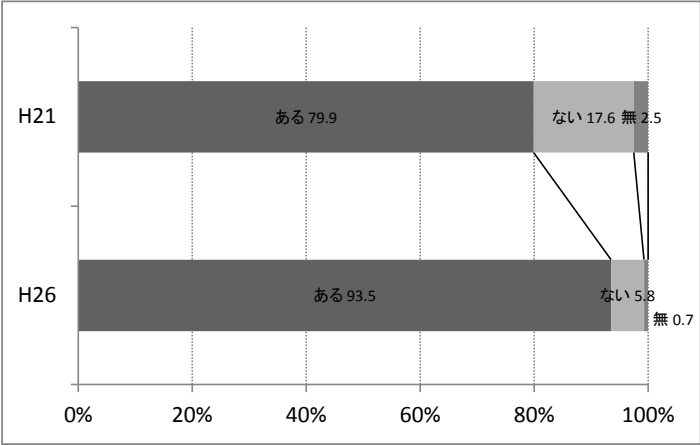
「本を読む」と答えた生徒の割合はわずかに増加しているが、全体的に見てみると、休みの日に読書をする生徒の割合は依然として低いままである。

その他として
・音楽を聴く
・ピアノ
・PC
・スポーツ
・スマホ、タブレット、LINE
などが挙げられた。



問8
あなたは、「よみかかせ」を
してもらったことがありますか。

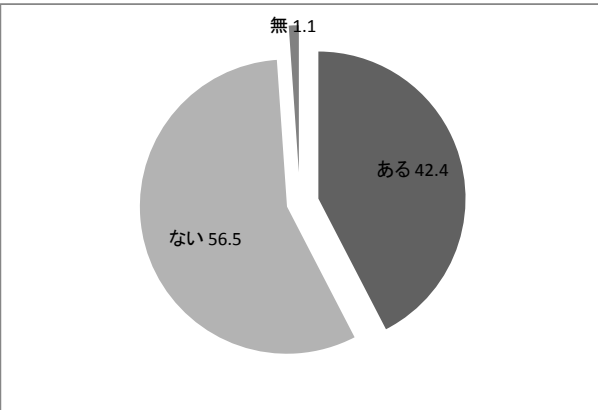
よみかかせをしてもらったことがある
生徒の割合が大きく増加している。



以下は平成26年度に新しく追加したアンケートの結果です。

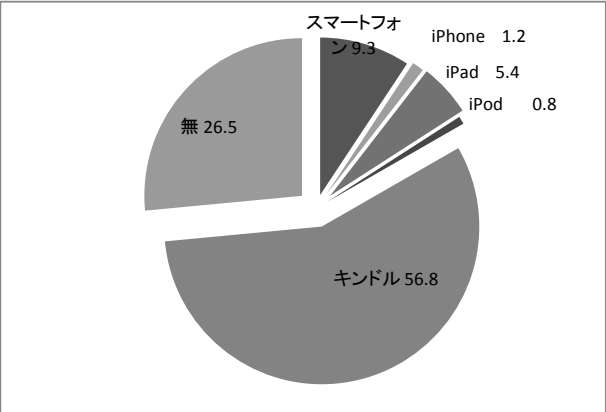
問9
電子書籍を活用したことがありますか。

電子書籍を活用したことがある生徒
は約4割である。



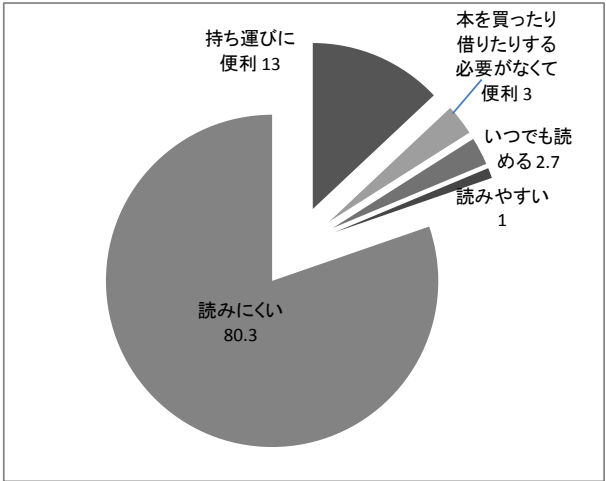
問10
問9で「ある」と答えた人
どの種類を利用していますか。

キンドル (Amazon.comが開発・販売
する電子書籍リーダー端末、および
そのサービスの総称。)を利用してい
る生徒の割合が一番多い。



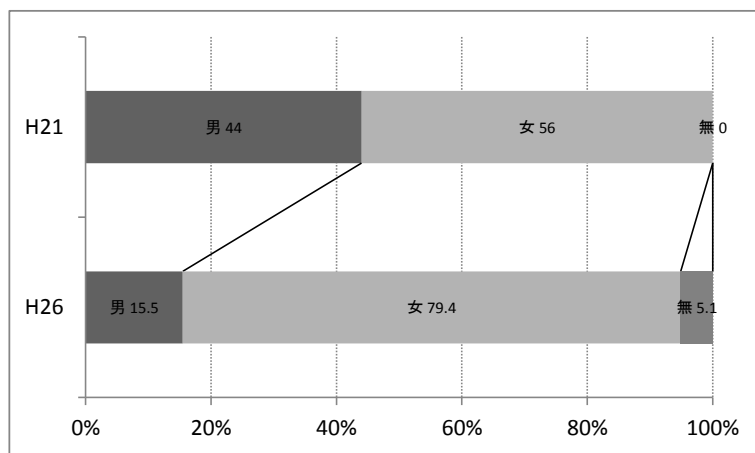
問11
問9で「ある」と答えた人
活用してみてどうですか。

「持ち運びに便利」や「本を買ったり借
りたりする必要がなくて便利」などの
利点よりも、「読みにくい」という意見
が多いことが分かる。
読書をするには、電子書籍よりも冊子
の方が便利であることが分かる結果
となった。



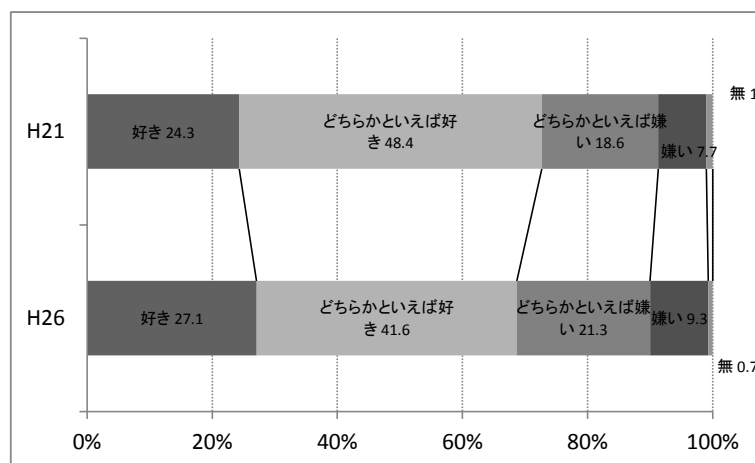
3. 高校生生徒アンケート結果

問1
あなたの性別を教えてください。



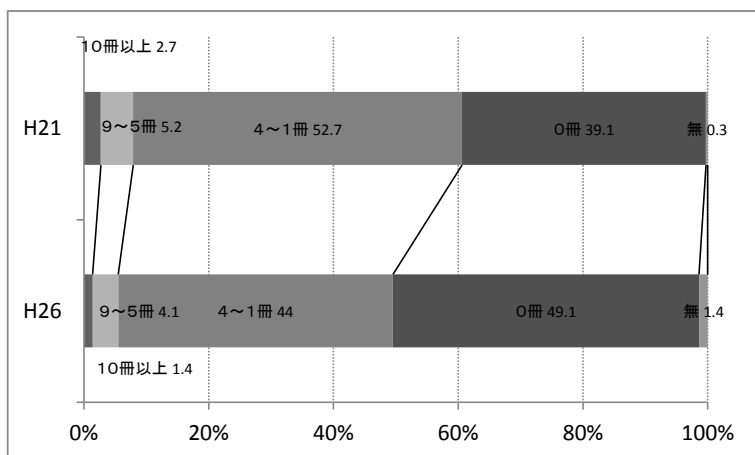
問2
あなたは、本を読むのが好きですか。

読書を好む生徒の割合が減少している。



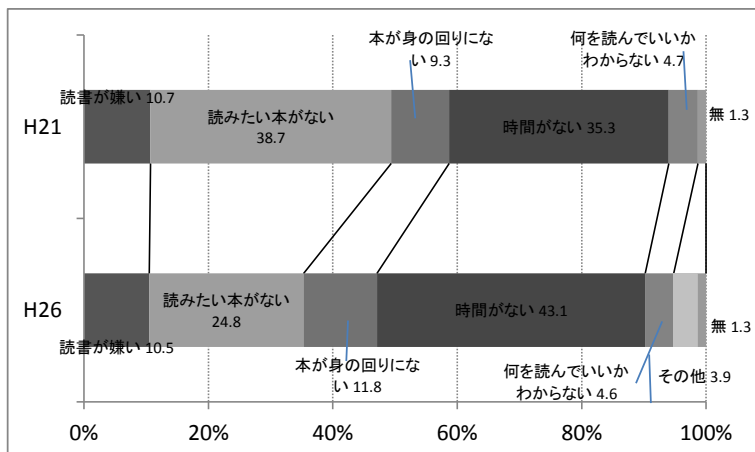
問3
あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

1ヶ月に1冊も本を読まないという生徒の割合が大きく増加している。

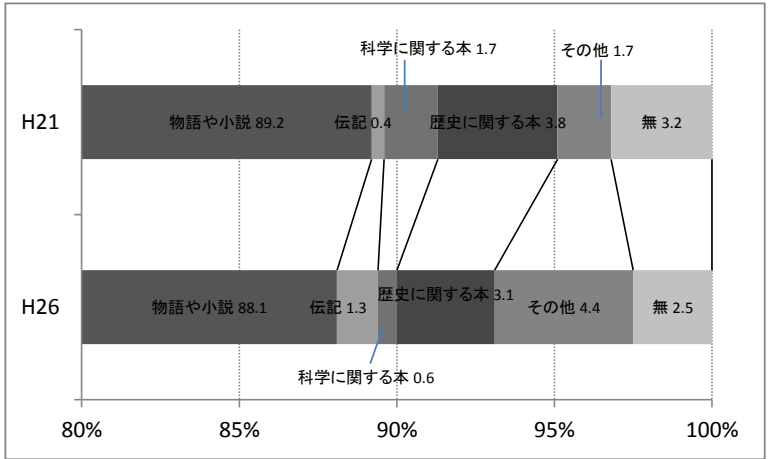


問4(1)
問3で「0冊」と答えた人なぜ本を読まないのですか。

本を読まない理由として、「時間がない」ことが大きな割合を占めている。読書に割く時間がないことが分かる結果である。

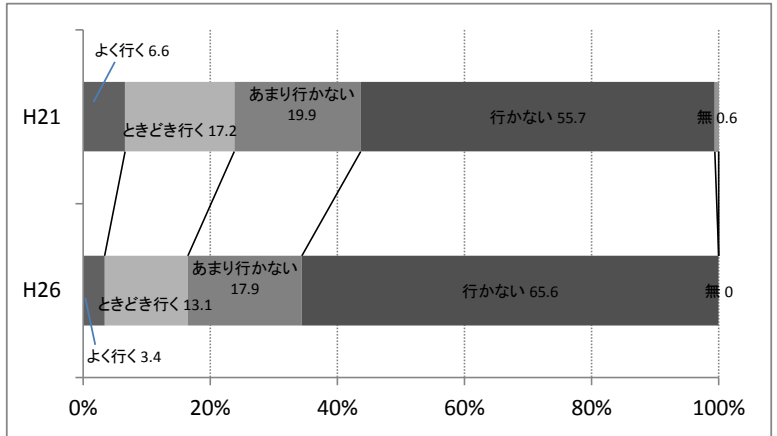


問4(2)
問3で「1冊以上読む」と答えた人
どんな本をよく読みますか



問5
学校の図書館(図書室)に
よく行きますか。

「あまり行かない」、「行かない」と答えた生徒が大きな割合を占めている。



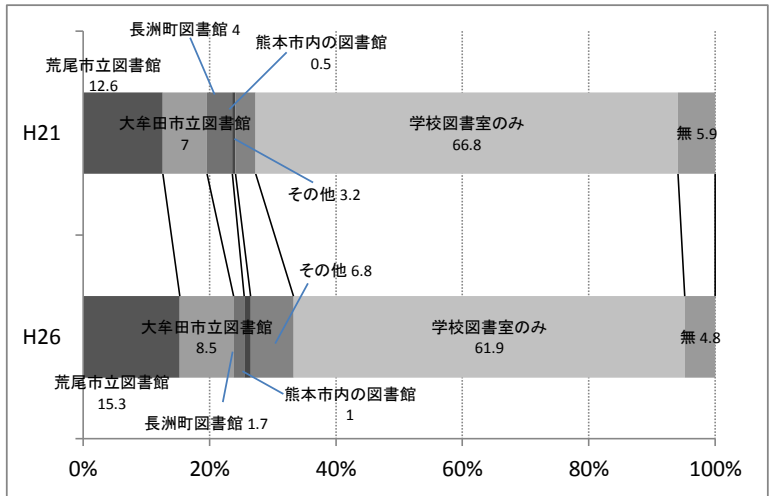
問6
学校以外の図書館に行きますか。

中学生と同様に、学校の図書室のみではなく、荒尾市立図書館や市外の図書館も活用していることが分かる。

その他として、

- ・玉名市民図書館
- ・玉名市横島図書館
- ・南関町図書館

などが挙げられた。



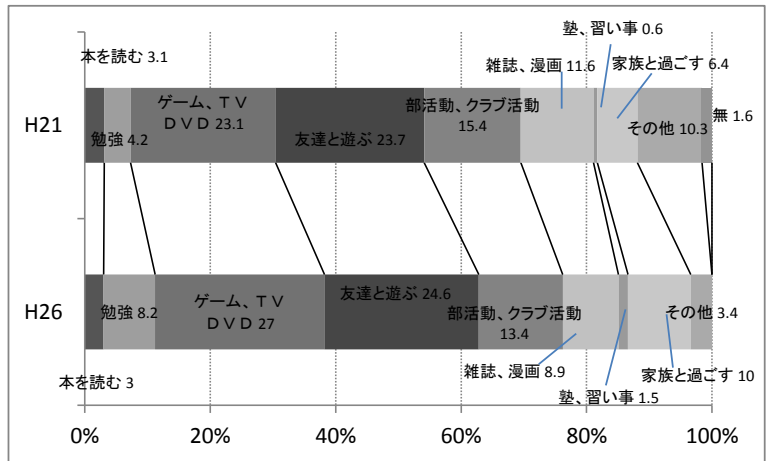
問7
あなたは、休みの日や家にいる時、
どんなことをしますか。

「勉強」、「ゲーム、TV、DVD」、「家族と過ごす」と答えた生徒の割合が増加した。

その他として

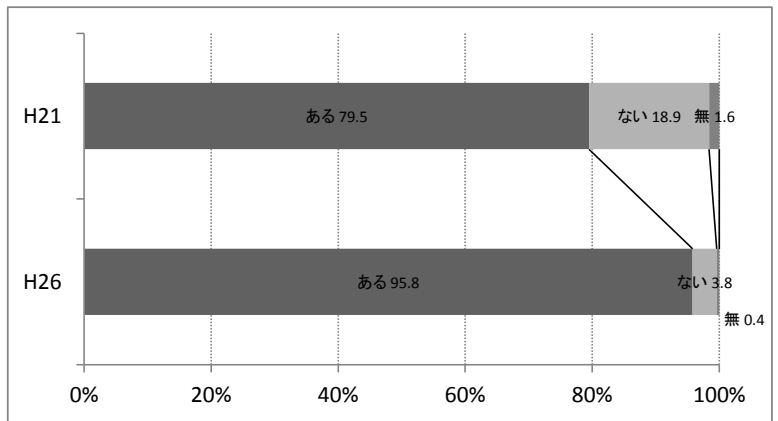
- ・音楽を聴く
- ・楽器の練習
- ・PC
- ・寝る
- ・スマートフォン、タブレット

などが挙げられた。



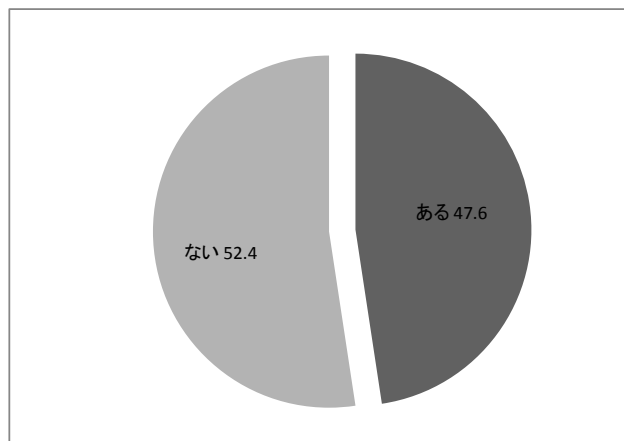
問8
あなたは、「よみきかせ」を
してもらったことがありますか。

よみきかせをもらったことが
ある生徒の割合が大きく増加し
ている。



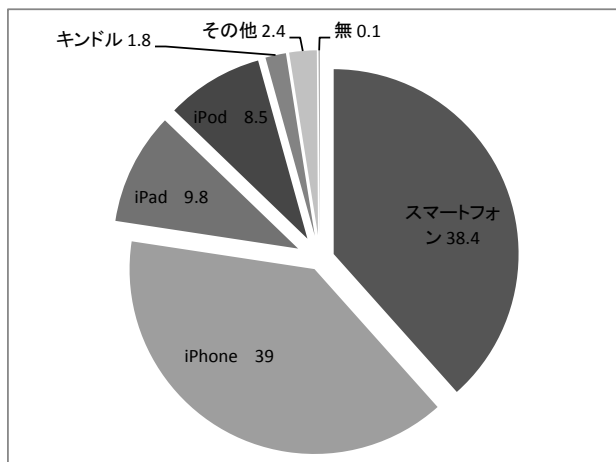
以下は平成26年度に新しく追加したアンケートの結果です。

問9
電子書籍を活用したことがありますか。



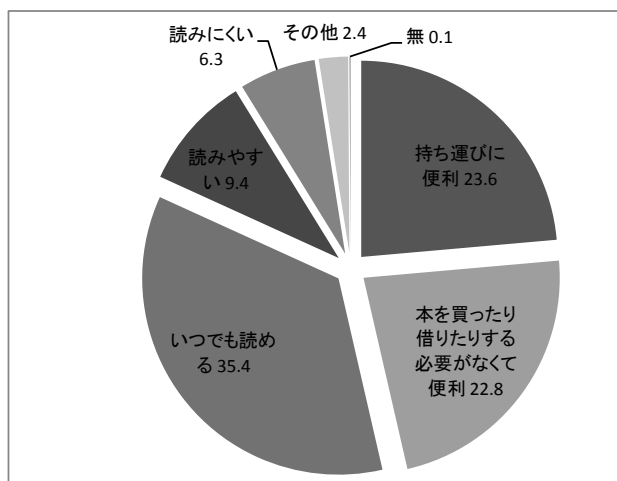
問10
問9で「ある」と答えた人
どの種類を利用していますか。

キンドルを利用する生徒が多
かった中学生に対し、高校生は
スマートフォンやiPhoneを多く利
用していることが分かる。



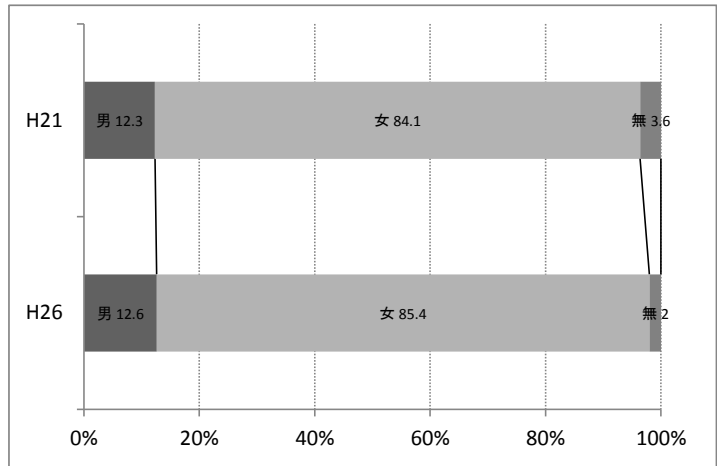
問11
問9で「ある」と答えた人
活用してみようですか。

中学生は、「読みにくい」との不
便に感じている意見が多くを占
めていたが、高校生は、「いつで
も読める」ことや「持ち運びに便
利」なことなど、利点を挙げる割
合が多いことが分かる。

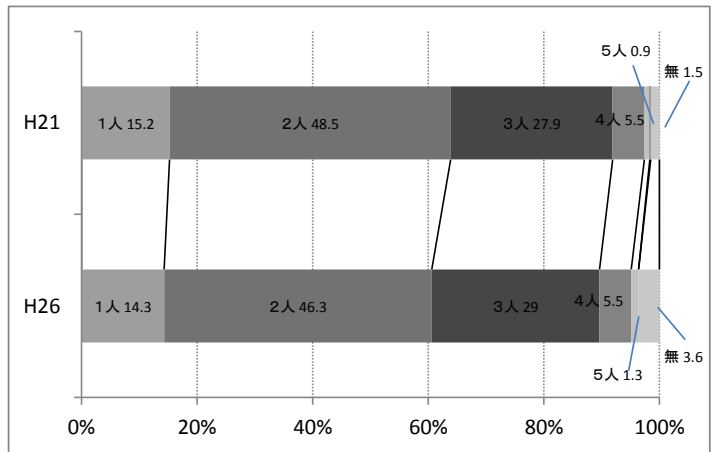


4. 小学生保護者アンケート結果

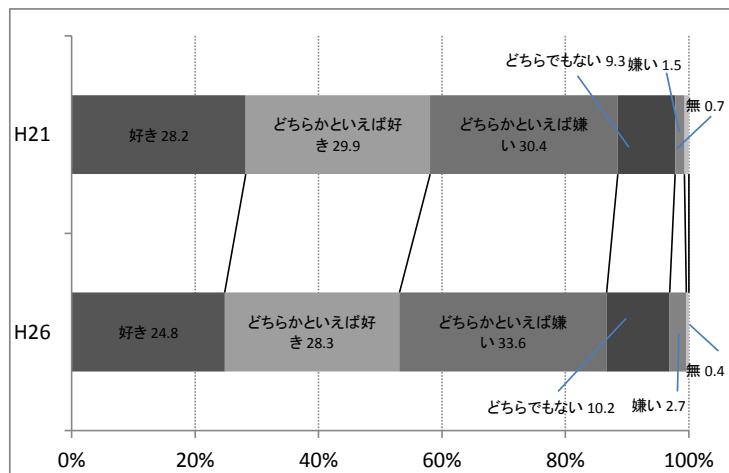
問1-1
あなたの性別を教えてください。



問1-2
18歳未満の子どもの人数を教えてください。

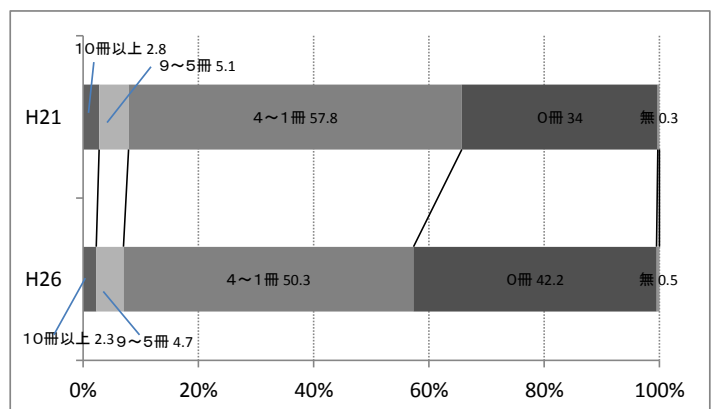


問2
あなたは、本を読むのが好きですか。



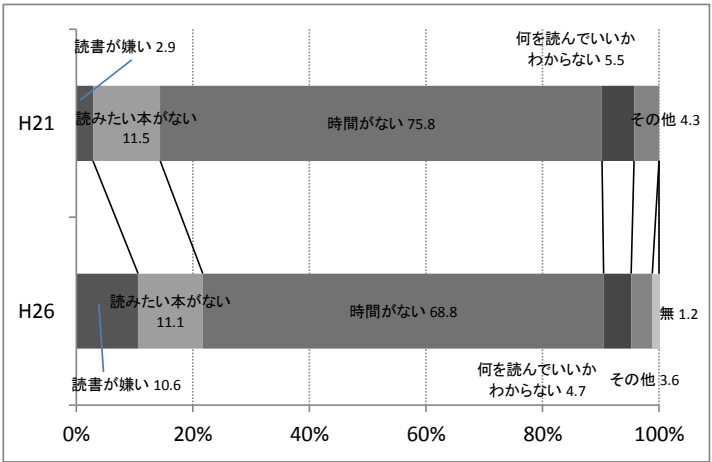
問3
あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

1ヶ月で1冊も本を読まないという保護者が増加している。



問4
問3で「0冊」と答えた人
なぜ本を読まないのですか。

前回と同様に、「時間がない」が大きな割合を占めているが、「読書が嫌い」と答える保護者の割合が増加している。



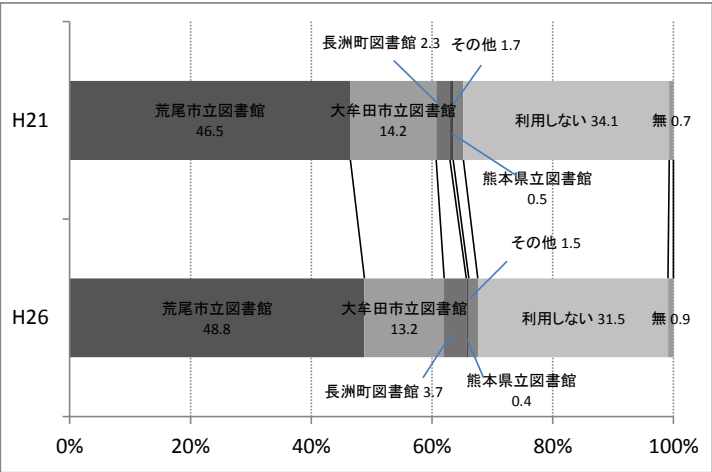
問5
地域の図書館を利用しますか。

「利用しない」と答えた保護者の割合がわずかに減少し、荒尾市立図書館を利用する保護者の割合がわずかに増加していることが分かる。

その他として、

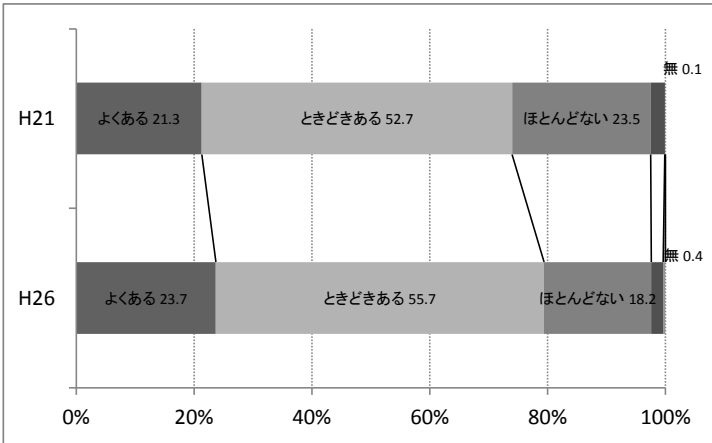
- ・熊本市立図書館
- ・玉名市民図書館
- ・みやま市立図書館
- ・武雄市図書館

などが挙げられた。



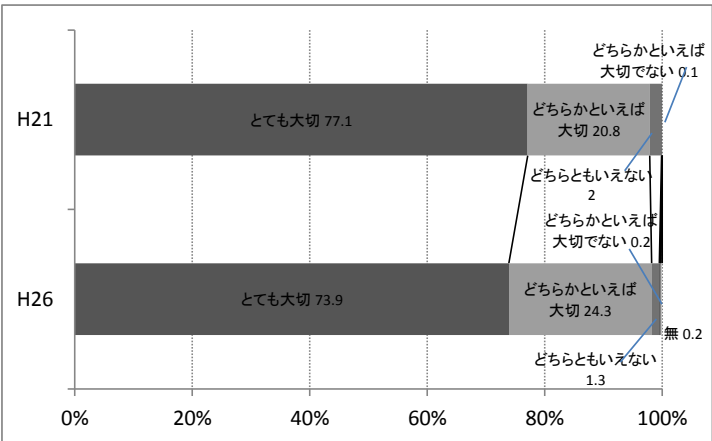
問6
ご自分の子どもに
本のよみかせをしたことがありますか。

よみかせをすることが「よくある」、「ときどきある」と答えた保護者の割合が増加している。



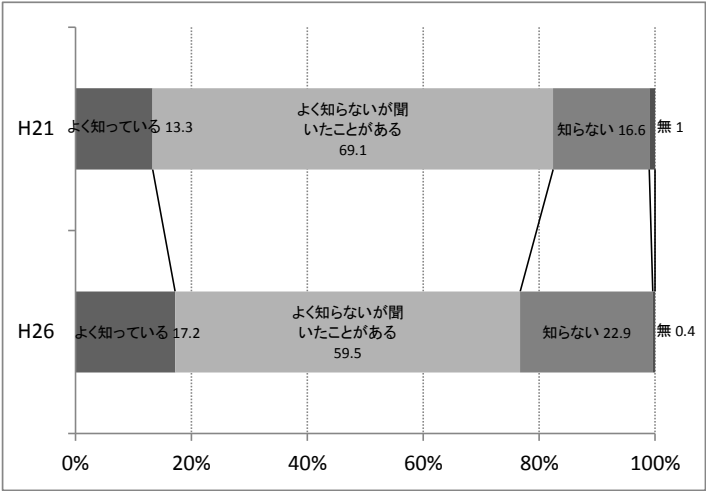
問7
子どもが読書をすることは大切だと思いますか。

「とても大切」、「どちらかといえば大切」と答える保護者の割合が大きく、約98%を占めており、ほとんどの保護者が読書の大切さを感じていることが分かる。



問8
 子ども読書の日や読書週間、
 子どもの読書活動推進法や基本計画
 などを知っていますか。

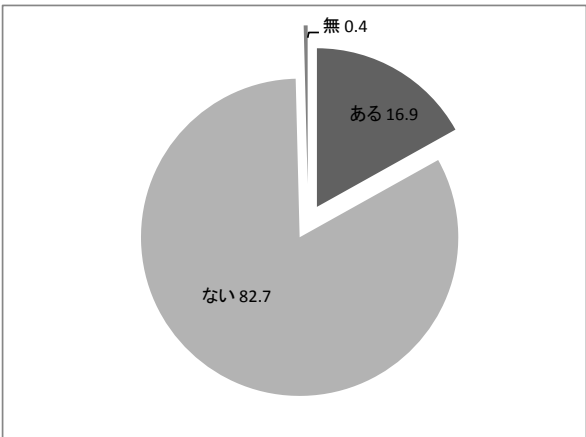
「知らない」と答えた保護者の割合が
 増加している。いずれも、周知が足り
 ていないことがよく分かる。



以下は平成26年度に新しく追加したアンケートの結果です。

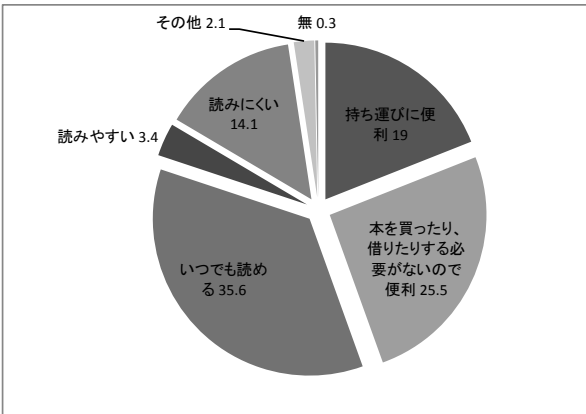
問9
 電子書籍を活用したことがありますか。

「ない」と答えた保護者の割合が8割
 を超えており、中学生や高校生と比
 較して、保護者には電子書籍の活用
 は浸透していないことが分かる。



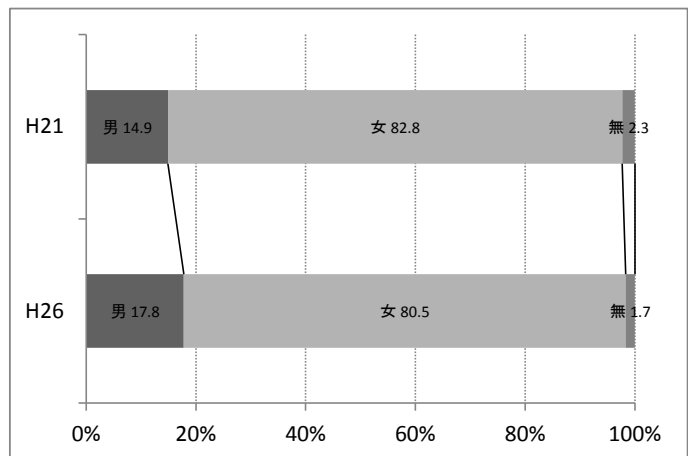
問10
 問9で「ある」と答えた方
 活用してみてどう思いますか。

「いつでも読める」が一番の割合を占
 めている。「読みにくい」の割合が約
 15%であり、不便を感じる声よりも
 便利と感じている割合が大きいこと
 が分かる。

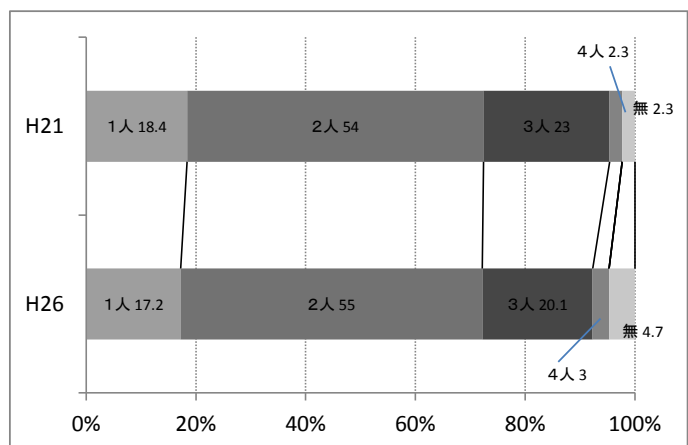


5. 中学生保護者アンケート結果

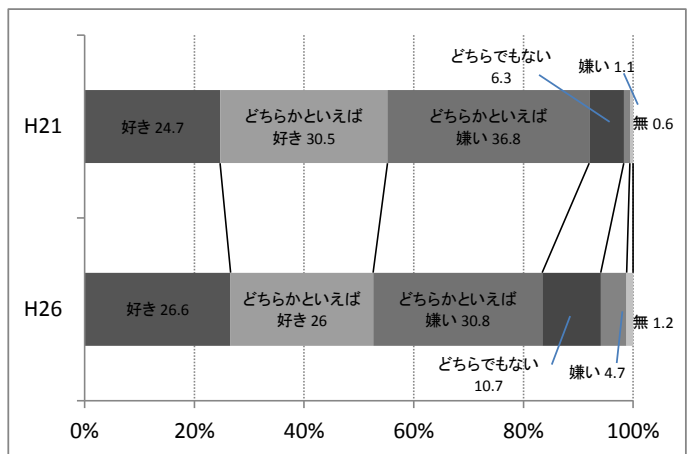
問1-1
あなたの性別を教えてください。



問1-2
18歳未満の子どもの人数を教えてください。

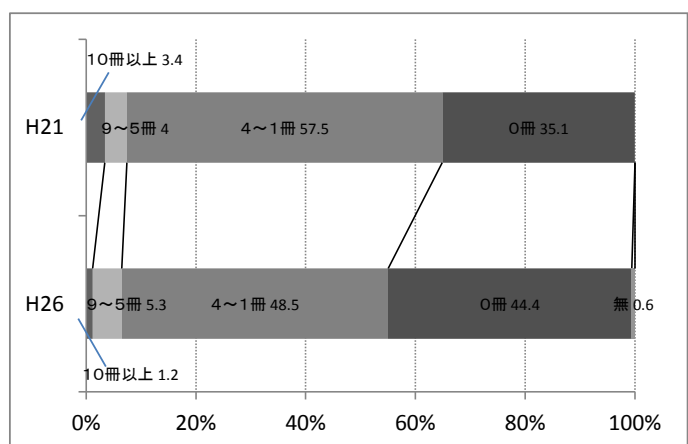


問2
あなたは、本を読むのが好きですか。



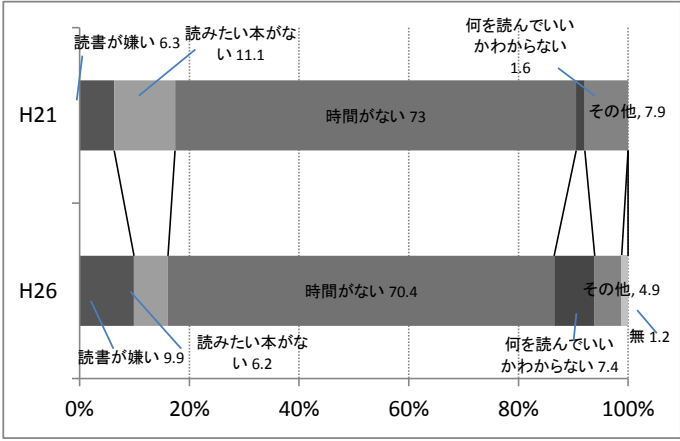
問3
あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。

小学生の保護者と同様に、1ヶ月で1冊も本を読まないという保護者が増加している。



問4
問3で「0冊」と答えた人
なぜ本を読まないのですか。

読書をする「時間がない」の割合が多くを占めている。
また「何を読んでいいかわからない」の割合が大きく増加している。



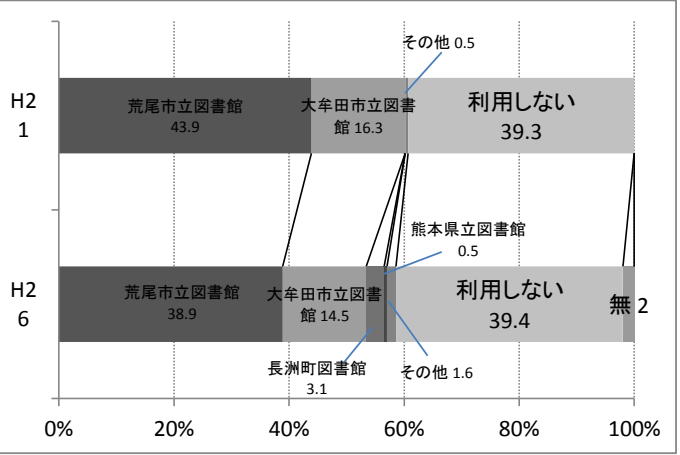
問5
地域の図書館を利用しますか。

図書館を利用しない人の割合が約4割を占めている。長洲町図書館を利用する人が以前は0%だったのに対し、今回は3%ということは、平成26年4月より、長洲町とも相互利用が可能になったことが理由と考えられる。

その他としては、

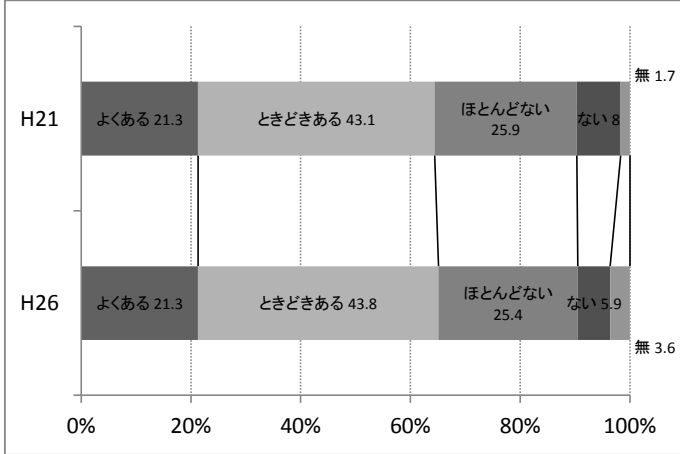
- ・くまもと森都心プラザ図書館
- ・長洲町図書館
- ・南関町図書館
- ・みやま市立図書館

が挙げられた。



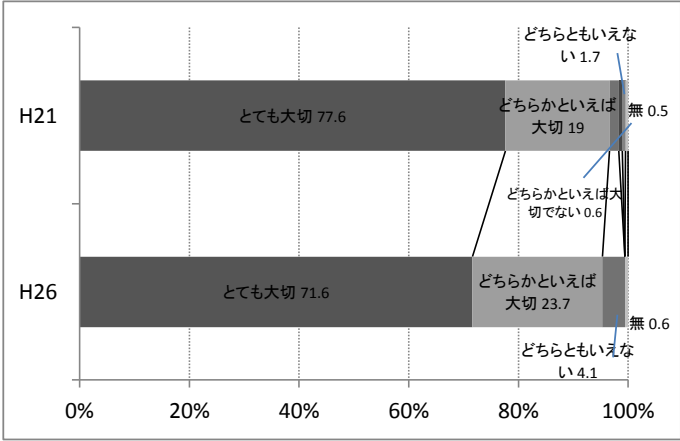
問6
ご自分の子どもさんに
本の読み聞かせをしたことがありますか。

「よくある」、「ときどきある」の割合が約65%である。
小学生・中学生・高校生の多くが、「よみかかせをしてもらったことがある」という回答であったため、保護者によるよみかかせだけでなく、学校や地域でのよみかかせに参加した経験があることが考えられる。



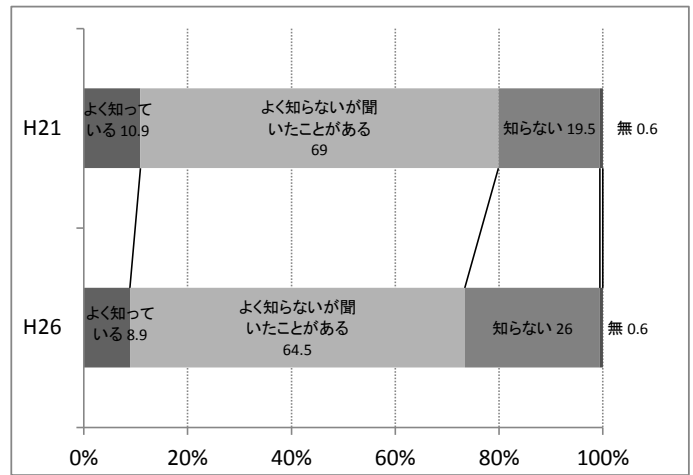
問7
子どもが読書することは大切だと思いますか。

「とても大切」と感じる保護者の割合は減少したが、「どちらかといえば大切」もあわせて、約95%を占めており、読書の大切さを感じている保護者が多くを占めていることが分かる。



問8
 子ども読書の日や読書週間、
 子どもの読書活動推進法や基本計画
 などを知っていますか。

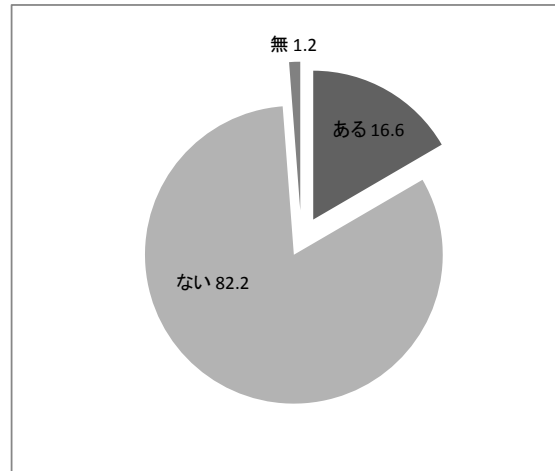
「よく知っている」、「よく知らないが聞いたことがある」と答えた保護者の割合が約8割から約7割に減少しており、小学生保護者と同様に、いずれも周知が足りていないことが分かる。



以下は平成26年度に新しく追加したアンケートの結果です。

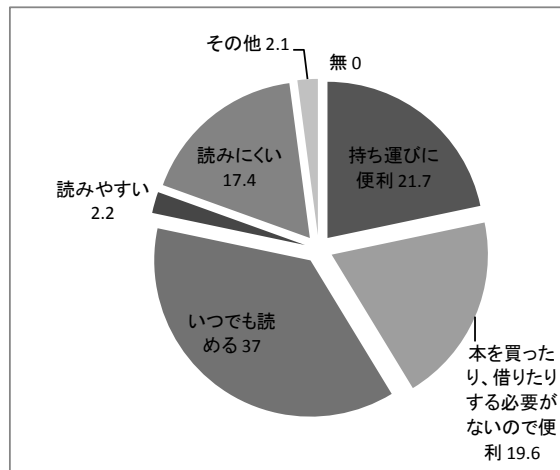
問9
 電子書籍を活用したことがありますか。

小学生の保護者と同様、電子書籍を利用したことがない保護者の割合が約8割を占めており、保護者の中での電子書籍の浸透は進んでいないことが分かる。



問10
 問9で「ある」と答えた方
 活用してみようと思いますか。

小学生の保護者と同様、不便に感じている保護者よりも便利と感じている保護者の割合が多くを占めている。



6. 小中学生保護者アンケート（自由記載分）

子どもがより良い読書をするためにはどんなことが必要だと思いますか。
また、子どもたちが読書することによって期待される良い効果は何だと思いますか。

いただいた意見は以下のとおりです。（抜粋）

- 読書することによって新しい発見や思いがけない感動にふれることができる。また、他者を理解する力にもつながると思います。子どもたちがいつでも本に触れられるように、家庭にも本がたくさんあるといいと思います。
- テレビやゲームの時間を減らし、読書のための時間を作ること、多くの本を読むことで、読解力、想像力を養える。
- 図書館の蔵書の充実、新刊書の充実は必要だと思います。興味のある本を通して、漢字を覚えたり、色々な考え方に触れたりといった効果があると思います。
- テレビにはない、物語の先を自分で想像したり、絵を見て自分の想像をふくらませたり、自分の知らなかった世界を知ったり、言葉の大切さ、思いやりを育てることができると思います。字をたくさん覚えたり、表現方法など勉強できる。
- 小さい頃からいろんな本を読み聞かせたりして、本に触れる機会をもつことが大事だと思います。読書することで言葉だけでなく心も豊かになること、実際に体験できないことでも本の中で体験ができるなど様々な効果があると思います。
- 人の感情を上手に感じ取れる効果、日本語の使い方を勉強できる効果、上手く他人に気持ちを伝える効果、を期待します。
- 家庭・学校などいつでも読みたいときに、読める環境と大人も一緒にテレビを消して読む習慣が必要。イマジネーション、判断力、批判力がつき、考えることが自然にできるようになる。
- 日常の生活の中ですぐ手に取れる所に本があること。生活の一部になるようにしてやるのが大事だと思います。心がとても満ちると思う。
- 荒尾市の図書館をもっと利用できるように本の数を増やし、勉強できるスペースをつくってあげて、子供たちが通いたくなる図書館づくりを考えてほしいです。

7. 学校アンケート集計結果

問1 学校図書館の開館時間を教えてください。

小学校

	平日	長期休暇
A小	8:15～16:45	閉館
B小	60分	120分
C小	昼休み・各担任がついている時も開館	閉館
D小	1時間	閉館
E小	13:10～13:45	9:00～16:00
F小	8:10～8:20, 13:15～13:55, 16:30～16:45	閉館
G小	8:00～8:15, 13:10～13:30	10:30～12:00, 14:00～15:00
H小	8:00～8:15, 13:15～13:40	10:00～12:00, 13:00～15:00
I小	7:50～8:10, 13:20～13:55	閉館
J小	8:00～16:10	閉館

中学校

	平日	長期休暇
A中	昼休み、放課後	閉館
B中	10:00～17:00	10:00～17:00
C中	10:00～17:00	10:00～17:00

高校

	平日	長期休暇
A高	8:55～17:00	9:00～17:00
B高	8:35～17:00	8:35～17:00

問2

図書室に司書の方が何人いますか。

小学校 → 0人

中学校 → 各学校1名ずつ

高校 → 各学校1名ずつ

問3

図書室の蔵書数は何冊ですか。

小学校

冊数(冊)	学校数
3,000～3,999	2校
4,000～4,999	1校
5,000～5,999	4校
6,000～6,999	1校
7,000～7,999	1校
1万冊以上	1校

中学校

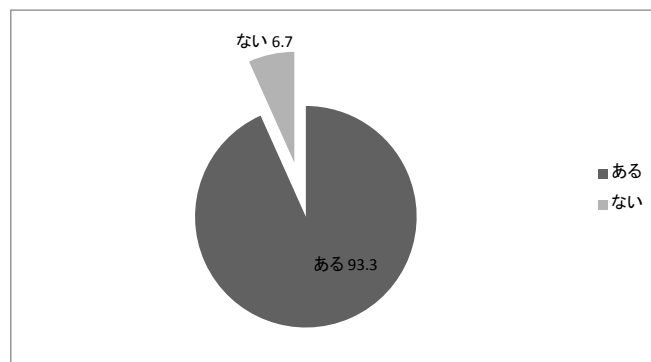
冊数(冊)	学校数
9,000～10,000	1校
12,000冊以上	2校

高校

冊数(冊)	学校数
16,000冊以上	1校
55,000冊以上	1校

問4

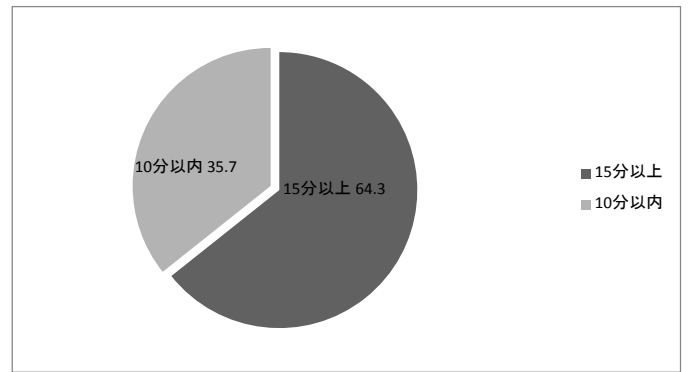
朝に読書を行う時間がありますか。



問5

問4で「ある」と答えた学校
どれくらいの時間ですか。

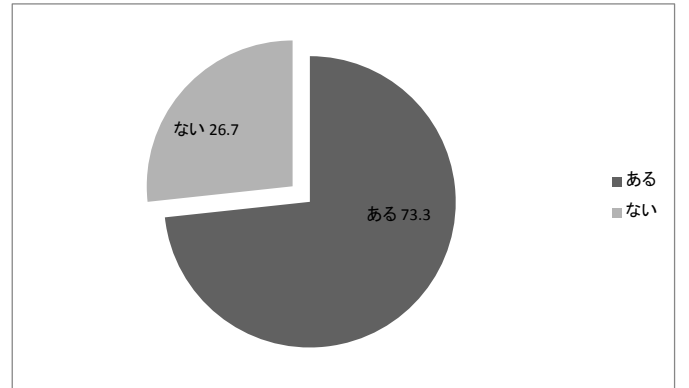
15分以上、朝読書を行っているという学
校が約6割を占めている。



問6

学校内によみきかせボランティア団体がありますか。

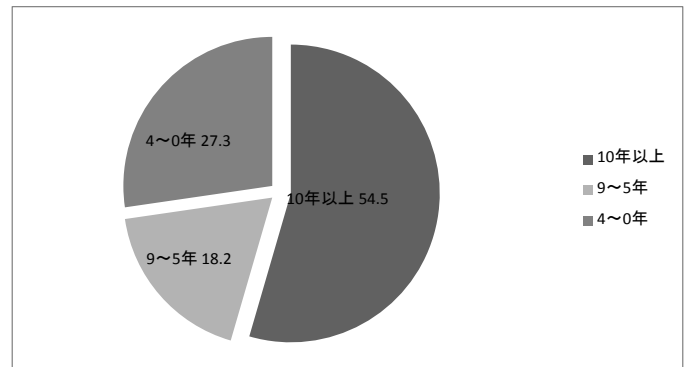
小学校は全校に、よみきかせボランティア
団体があり、子どもたちへのよみきかせを
行っている。



問7

問6で「ある」と答えた学校
活動年数はどれくらいですか。

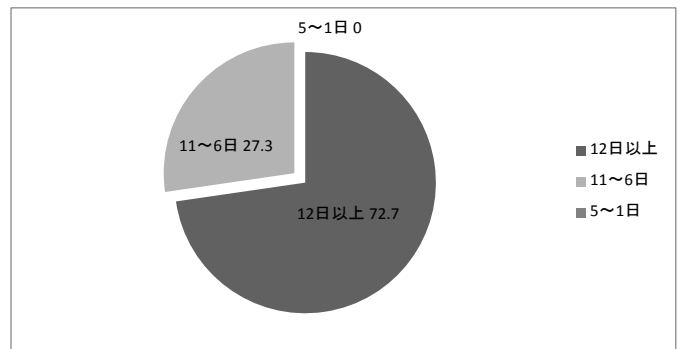
活動を始めて間もない団体もあるようだが、約半
数が10年以上活動されている。



問8

問6で「ある」と答えた学校
1年間の活動日数は何日ですか。

12日以上と答えた学校が約7割を占めて
おり、月に1回以上活動していることが分
かる。



8. 幼稚園・保育園等アンケート結果

問1

育児サークルや先生による「よみきかせ」を行っていますか。

よみきかせを行っている



100%

◆現状◆

- ・毎日、よみきかせを行っている幼稚園・保育園がほとんどであり、毎日4～5冊のよみきかせを行っている園もある。
- ・個人で絵本を購入してもらい、自宅に持って帰る前に園に置いておき、よみきかせをするという園もある。
- ・保育士によるよみきかせだけでなく、よみきかせボランティアの方によるよみきかせも行っている。
- ・よみきかせの際に、年齢・場所・タイミング・季節等を考慮し、工夫してよみきかせを行っている。
- ・園内の図書室で、本の貸出を行っている。

問2

図書コーナーはありますか。

図書コーナーがある

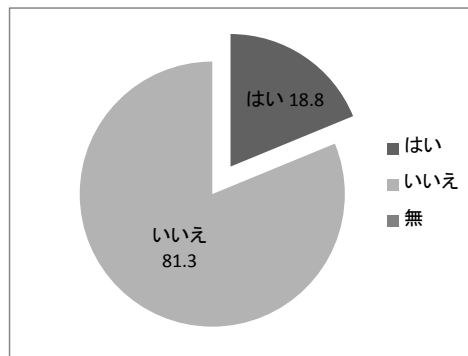


100%

問3

移動図書館巡回貸出サービスなどを利用していますか。

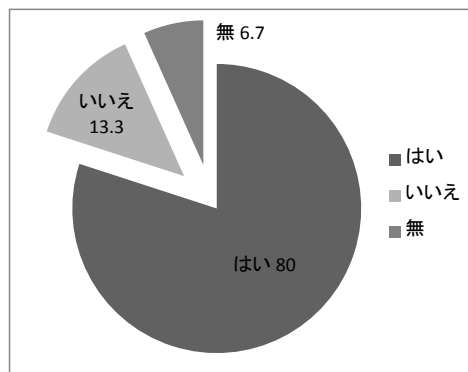
移動図書館巡回貸出サービスを利用しているのは、約2割の幼稚園、保育園である。(調査時、荒尾市立保育園のみ巡回)



問4

児童のためにブックリストや読書に関するリーフレットなどが必要ですか。

8割の幼稚園、保育園が園児のための読書に関する情報を必要としている。



問5

読み聞かせや読書指導等の方法の研修や講演会に参加していますか。

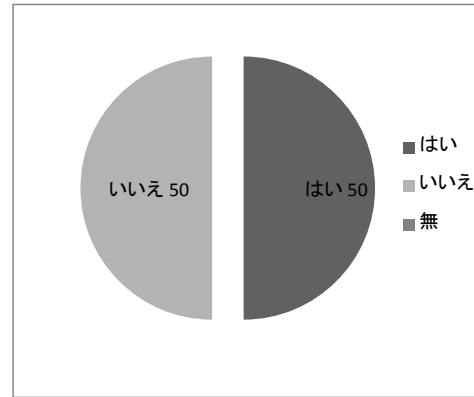
半数の幼稚園、保育園が研修や講演会に参加しているとの回答であった。

研修や講演会の内容としては、

- ・元アナウンサーの方による声の出し方や間の取り方などの研修
- ・出版社による研修
- ・絵本の選び方
- ・保育関連の研修
- ・絵本出版社(チャイルド本社、こどもの友社等)による研修

が挙げられた。

現在は参加していないが、以前は参加していたという幼稚園、保育園もあった。



問6

どのようなサービスがあればよいと思いますか。

- ・園児向けの本の紹介(年齢ごと)
- ・季節や行事ごとなど、テーマ別にまとめたブックリスト
- ・よみきかせグループの方による絵本のよみきかせやパネルシアターの上映

3-2 平成32年度末において期待される目標

※数値については、左側が平成26年度に実施した「荒尾市子どもの読書に関するアンケート」の結果(子ども…小中高の平均)、右側が平成32年度末の目標値

1. 子どもたちの読書に対する気持ち

※読書が「好き」、又は「どちらかといえば好き」と回答

〈前回の目標〉

78% → 90%

73% → 90%

前回の目標を90%としていましたが、結果は前回の結果よりも低い73%でした。
平成32年度末における目標は前回の目標と同様の数値とします。

2. 子どもたちが本を読む頻度

※1か月に「1冊以上本を読む」と回答

〈前回の目標〉

88% → 95%

71% → 90%

前回の目標を95%としていましたが、結果は前回の結果よりも大幅に低い71%だったため、
平成32年度末における目標は90%とします。

3. 子どもたちが学校の図書室に行く頻度

※学校の図書室に「よく行く」、「ときどき行く」と回答

〈前回の目標〉

58% → 70%

42% → 60%

前回の目標を70%としていましたが、結果は前回の結果よりも大幅に低い42%だったため、
平成32年度末における目標は60%とします。

4. 子どもたちがよみきかせをしてもらう頻度

※よみきかせをもらったことが「ある」と回答。

また、保護者については、よみきかせをしたことが「よくある」、又は「ときどきある」と回答

【子ども】

＜前回の目標＞

90% → 95%

96% → 100%

前回の目標を95%としており、今回の結果では目標を達成しました。

平成32年度末における目標は、100%とし、全員がよみきかせをもらったことがあると回答するような環境作りを目指します。

【保護者】

＜前回の目標＞

73% → 80%

72% → 80%

前回の目標を80%としていましたが、今回の結果でもあまり変化がなかったため、平成32年度末における目標は、前回と同様の80%とします。

荒尾市子どもの読書活動推進実行委員会

荒尾市では、「学校教育関係者」「社会教育関係者」「学識関係者」「ボランティア」等により組織された「荒尾市子どもの読書活動推進実行委員会」を設置し、子どもの読書活動の推進について、それぞれの立場から貴重なご意見をいただきながら、研究協議を行ってまいりました。

平成 19 年度に荒尾市で実施し、2 年に 1 度開催している「熊本県子どもの読書活動推進フェスティバル」や、20 年度の「青少年のためのオーサー・ビジット事業」などの取組は、本委員会のご意見等を踏まえ実施したものです。

本基本計画についても、「荒尾市子どもの読書活動推進実行委員会」により、研究協議のうえ策定いたしました。

平成 28 年 3 月